

2024年はチリ産果実ブランドによる市場開拓の年

FreshPlaza 2024年1月5日

新たな年である2024年に、チリは世界中の市場で青果物供給国としてのブランドを確固たるものにする。フルタス・デ・チリ(「チリ産果実」を意味するASOEX(チリ果実輸出業者協会)のブランド)のイバン・マランビオ会長は、チリを際立たせる同ブランドを通じてこれを達成すると言い、「2024年は、我々の『フルタス・デ・チリ』ブランドを確立し、果実市場の改善と新市場の開拓に向けて引き続き前進する重要な年である」と話す。

チリは、すべての果実が中国への輸入を承認されている数少ない国の1つである。同国はまた、アジアの多くの市場で、未承認の果実の交渉や市場参入も順調に進めている。例えば、インドネシアでは柑橘類(レモン)、ベトナムではキウイ、韓国ではスモモ、日本ではリンゴの参入について進展が見られる。

マランビオ会長によれば、チリ政府がこれらの国への訪問や当局との会合を行うに当たって、強力な官民パートナーシップによりフルタス・デ・チリが参加する緊密な協力関係があることが重要である。

気候上の課題は克服される

マランビオ氏は、「気候と干ばつに関連する課題はあるが、国全体として、輸出の成長に伴う長期的な視点を持って、必要なインフラの計画と整備を進め、また物流と港湾の改善に向けて前進する」と話す。

すでにアクセスがある市場では、フルタス・デ・チリは、より迅速な貿易を促進するために、そのアクセスを拡大または改善するよう努める。重要な米国市場では、チリの特定の地域からのシステムアプローチによる生食用ブドウの輸入に関する交渉が今年中に完了することを期待している。同氏は、「米国がシステムアプローチを承認することで、アタカマ州及びココキンボ州、それにバルパライソ州の一部地域から出荷される生食用ブドウの燻蒸が回避でき、米国市場におけるチリ産ブドウの競争力が向上することを望んでいる」と述べた。

執筆者: クレイトン・スワート

南アフリカ産アボカド 日本における躍進を期待

ASIAFRUIT 2024年1月5日

日本への輸出条件が最終的に決定したことによって、南アフリカ産アボカドの極東の消費市場へのアクセスが増強された。南アフリカは、10月には中国への出荷に関する議定書に署名し、インドへのアクセス獲得に向けても順調に進んでいる。これらの市場が一体となって、以前は主に英国とEU諸国に頼っていた南アフリカのアボカド輸出プログラムにまったく新しい局面をもたらすだろう。

サブトロップ社の経営責任者であるデレック・ドンキン氏は、「南アフリカ産ハスアボカドの日本への輸出に関する条件が最終決定されたことは、弊社にとって本当に朗報である。最初の出荷は、農園や梱包施設の登録と検査がすべて完了し、果実が所定の低温処理(2℃で19日間)に耐えられるだけ十分に成熟した後、おそらく今年の6月頃になるだろう」と述べた。

同国のアボカド生産者は中国への輸出準備も進めており、4月以降に最初の出荷が行われる可能性がある。インドについては、南アフリカが提案した輸入条件に対するインド政府の回答を待っている。(詳細省略)

一方、南アフリカのアボカド生産者らは、2月上旬に国内の早生産地で収穫を始める準備を進めており、3月上旬には英国とEU諸国への出荷が開始される見込みである。

アボカド産業は成長段階にあり、最近では国の北部の早生産地とそれより遅い南ケープ州の産地の組み合わせにより、国内及び輸出向けの供給シーズンが大幅に延長された。極東へのアクセスの増加は、業界の成長をさらに後押しすると期待される。

執筆者: フレッド・メインチェス

訳注: 南アフリカ産アボカドの日本への輸入は、令和5年11月に条件付きで解禁されました。参考 [農林水産省告示](#)